

鳥取県鍼灸 マッサージ師会 通信

発行 公益社団法人
鳥取県鍼灸マッサージ師会
代表者 山根 和由
事務所 〒680-0031
鳥取市本町3丁目201番地
鳥取産業会館・鳥取商工会議所ビル
tel & fax 0857-22-7598
HP <http://torishinma.sakura.ne.jp/>

平成29年度 第2号



29年度学術講習会全課程を修了

本会における29年度の講習会・公開講座の全過程（4回）を終了することができました。第1回から3回では講師をお招きし、4回目は会員による研究発表の他、中央の動静報告が行われました。

ここでは、第1回目の学術講習会のご報告をいたします。

9月3日（日）鳥取市のさわやか会館において、大阪市立大学医学部名誉教授の井上正康先生を講師にお招きし『現代医学の死生観と21世紀病の逆襲』をテーマに、ご講演いただきました。

会場には本会会員の他、島根県師会、鳥取県鍼灸師会、鳥取盲学校の教諭など30余名の参加がありました。

午前の部では「生命の生存戦略と最先端医療の光と陰」というタイトルで、38億年の歴史を体内に持つ我々人間の進化、その歴史を留める腸内細菌の働きについてなど。午後の部では「21世紀病の逆襲と健康長寿の処方箋」というタイトルで、がん、動脈硬化、高血圧を例に現代医療の治療結果と有意性などをお話し頂き、参加者は先生のこれまでの研究を交えた興味深いお話に傾聴していました。

質疑では医療現場の現状を含め、先生のご見解を丁寧にご回答いただき大好評のうちに終了しました。



大阪市立大学医学部名誉教授 井上正康先生

学術講習会の開催にあたり、お忙しい中、ご講義、発表をしていただきました先生方、ご参加いただいた多くの方に御礼申し上げます。

会の動き

9月 3日

本年度第1回目の学術講習会・公開講座を開催

10月 1日

第2回学術講習会・公開講座を開催

第2回目の学術講習会・公開講座を鳥取市のさわやか会館を会場に開催し、本会と島根県師会、鳥取県鍼灸師会など24名が参加しました。



講師に、岡山県鍼灸マッサージ師会、四国医療専門学校講師の松浦浩市先生をお招きし、「リンパ疎通法」をテーマに午前は解剖、病理などの講義、午後は実技講習をして頂きました。参加者は熱心に受講し、活発な質疑応答が交わされていました。



松浦浩市先生による実技講習

10月 1日

第3回理事会・イベント委員会を開催

第2回学術講習会終了後、同所にて理事会と引き続きイベント委員会の反省会を行い、上半期の事業経過報告と収支の状況、次年度イベントなどについて話し合っ閉会しました。

10月 8日

鳥取・島根県師会交流会を開催

今年で11回目となる本会と島根県鍼灸マッサージ師会との交流会が松江市の松江テルサで開催されました。



本会からは山根和由代表理事をはじめとする5名の理事が参加し、今後の会の運営方針の他、それぞれ両県の情報交換と対策等が検討され非常に有意義な会合でした。

12月3日

第3回学術講習会・公開講座を開催

第3回学術講習会・公開講座を米子市公会堂会議室にて開催しました。

筑波技術大学保健科学部助教・近藤宏先生をお迎えし『スポーツ分野における鍼灸マッサージ～腰部の運動機能評価と鍼・マッサージ治療～』と題し、ご講演と実技供覧を行なっていただきました。

会場には会員の他、島根県師会、鳥取・島根両県の鍼灸師会会員ほか一般の方など31名が参集しました。

午前中は、スポーツ分野における鍼の臨床研究について、先生ご自身の研究内容を交えながらご講義いただき、午後からは、体幹一骨盤の運動機能評価の講義に続き、モデル患者2名に対する低周波鍼通電による実技講習が行われ、大変有意義な講習会で盛会に終了しました。



筑波技術大学保健科学部助教・近藤宏先生

30年1月28日

第4回学術講習会・公開講座を開催

倉吉市の伯耆しあわせの里を会場に6名の会員による中央情勢報告、研修会参加報告の他、日ごろの臨床における研究発表が行われました。あいにくの降雪の影響で参加者は17名でした。発表者とテーマは、次のとおりです。(敬称略)

1. 石飛 真二
「JIMTEF災害医療研修報告」
2. 植田 悠郁
「老人福祉施設でのマッサージ」
3. 森脇 安浩
「創業塾にヒントを得た治療院の経営改善方法について」
4. 松本 剛典
「燃え尽き症候群と鍼治療」
5. 植竹 雅宏
「第16回東洋療法推進大会 in 京都参加報告」
6. 山根 和由
「中央会議・研修会報告」

災害時における他の医療関係従事者との研修報告をはじめ、会員の日々の臨床の貴重な報告がなされ、会場は活発な質疑応答とともに意見交換行われました。

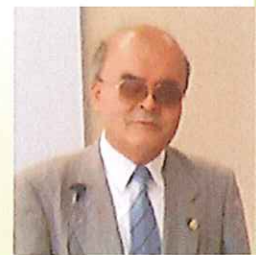


厚生労働大臣表彰受賞

おめでとうございます

平成29年11月5日(日)午後1時より東京有明医療大学において「あん摩マッサージ師、はり師、きゅう師法制定70周年記念の集い」が開催され、式典の場において、当会の前代表理事・國岡昭太郎氏が、あはき業界への長年の功労を認められ、厚生労働大臣表彰という栄誉ある賞を受賞されました。

尚、本会与(公社)鳥取県視覚障害者福祉協会との共催にて、祝賀会を2月25日に開催いたします。



國岡昭太郎氏

東洋療法推進大会 in 京都開催される。



大会のテーマを「先端医療と伝統医療の融合～未来への期待」と掲げた第16回東洋療法推進大会が9月24・25日の両日、快晴の京都の空の下、リーガロイヤルホテル京都において（公社）全日本鍼灸マッサージ師会、京都府鍼灸マッサージ師会、近畿鍼灸マッサージ師会連盟の共催で開催され、全国から一般の方を含め600名の参加があり、本会からは4名が参加しました。

1日目は、全鍼師会・伊藤久夫会長の挨拶で開会式が始まり、特別講演「iPS細胞による網膜再生とロービジョンケア」理化学研究所 網膜再生医療研究開発プロジェクト 中泊 聡（なかどまりさとし）先生による最先端の講演があり、続いて各会場では、「スポーツ事業委員会」、「AcuPOPJの活動報告」、「保険推進委員会①」、「京都府鍼灸マッサージ師会活動紹介」、「災害対策委員会」、「保険推進委員会②」の分科会が行われました。

2日目は、分科会「学術委員会（9名の臨床発表）」、「無資格者対策委員会」、「地域健康づくり委員会」、「視覚障害委員会」と続き、最後に全大会による分科会報告などが行われ全日程を終えました。

全国の業友とともに、学術・技術を少しでも吸収しようとの熱い思いを共有し、最新の情報にも触れられた有意義な大会参加でした。



全鍼師会・伊藤久夫会長による挨拶



理化学研究所・中泊 聡氏 講演

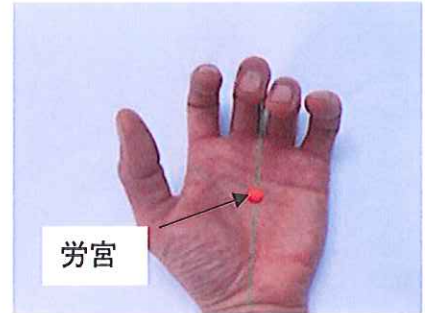


分科会のようす



ツボ10メモ

劳宮（ろうきゅう）^{けつ}穴 [手の厥陰心包経]



【位置】 手のひらの中央、中指と薬指を折り曲げて指先のあたる間で横紋（しわ）の上。ぐっと押しすと痛みを感じます。

このツボは、心苦勞の集まる中心という意味で、心勞が重なるとこのツボに症状があらわれます。イライラしすぎ、不眠が重なる、心勞がたまるなどで汗ばんだりカサカサしたりするようになります。

例えば、緊張した時など手のひらが汗ばみますね。手汗がひどい（※1）という方は自覚がなくても交感神経の興奮が続いていると考えられます。

字のごとく疲労したときに知らず知らずに手の柔らかいところを、もんでいることがあります。疲れをとるのにも効果があります。

その他に、口の中がどうも熱っぽい、胸がつかえる、手がしびれるといったときなども劳宮は使われています。

（※1） 結核などの感染症、甲状腺機能亢進症、内分泌代謝異常、神経疾患や薬剤性、神経疾患では大脳皮質の障害、脳梗塞、自律神経障害などもありますので注意が必要です。

（近年家族歴がある多汗症の報告があり、患者の一部には何らかの遺伝子関連も背景にあると考えられています。）

【参考文献】

山田光胤（やまだこういん）、代田文彦 著 図説東洋医学
日本皮膚科学会ガイドライン（原発性局所多汗症診療ガイドライン 2015年改訂版）

今後の予定・お知らせ

6月23・24日 中国地区鍼灸マッサージ師協議会 山口県
10月14・15日 東洋療法推進大会 鹿児島県

中央の動静を知り、情報交換、研修のよい機会となります。多くの皆様がぜひご参加ください。

申し込みは、本会事務局までお願いいたします。

「厚生労働大臣免許保有証」の交付申請について

あん摩マッサージ師、はり師、きゅう師の施術を受ける際に国家資格保持者と無資格者の判断が難しいとの事から、判別できるように発行されました。患者さんの安心のためにも、まだお持ちでない方は交付申請をよろしく願います。

申し込みは本会事務局まで願います。

厚生労働大臣免許保有証	
氏名: 東洋太郎	
生年月日: 平成〇年〇月〇日	
免許登録番号	
あん摩マッサージ指圧師	厚労第12345号
はり師	東京第45678号
きゅう師

顔写真

上記事項が名簿に登録され、免許証が交付されていることを証明する。
有効期限: 平成〇年〇月〇日 厚生労働大臣指定登録機関

公益財団法人 東京療法研修試験院 公印

編集後記

今年の冬は久しぶりに大きな「つらら」を見ました。私が小学生の頃は、吹雪の中でも歩いて学校に行くと、廊下や教室の隅に雪がうっすらと積もっていました。今はハード、ソフト面とも環境が良くなり、便利な事が当たり前となってしまいました。逆に感謝が薄れていき、少しでも自分の思った通りにならない事があると不満と感じ、がまんができなくなったといわれます。

広報誌もこれが当たり前とならないよう、より充実した誌面作りのために、ご意見・ご要望をよろしく願います。できる範囲で頑張ります。

